

原子力システム研究開発事業－特別推進分野－中間評価 総合所見

研究開発課題：崩壊熱除去系に対する自然循環除熱評価手法の開発

研究代表者(研究機関名):渡辺 収(三菱 FBR システムズ株式会社)

再委託先研究責任者(研究機関名):江口 謙(一般財団法人電力中央研究所)

再委託先研究責任者(研究機関名):上出 英樹(独立行政法人日本原子力研究開発機構)

研究期間：平成22年度～平成25年度(4年計画)

項目	要約				
1. 研究開発の概要	<p>既存の高速炉の安全評価に資するため、崩壊熱除去系の広範な運転条件に対する自然循環現象を実験的に確認するとともに、自然循環除熱評価手法を開発し、試験データに基づいて検証する。</p>				
2. 総合評価	<table border="1" data-bbox="320 797 411 1328"> <tr> <td data-bbox="320 797 411 875">A</td> <td data-bbox="411 797 1370 1133"> <p>・本研究の成果は、動力源が全て喪失した場合においても自然循環のみで崩壊熱除去が可能な炉システムの設計に資する重要な技術であり、本課題で研究を進めている各研究開発項目の継続は必須であると考え。成果も順調に出ており、全体的にプロジェクトの進捗は順調である。計画通りに開発を遂行して、目標を達成してもらいたい。また、システム水試験、ナトリウム試験ともにスケール効果など試験の結果をきちんと評価して、次の段階の研究開発、実用化へとつなげてもらいたい。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="320 1133 411 1328"></td> <td data-bbox="411 1133 1370 1328"> <p>A. 期待以上もしくは期待通りの成果が見込め、継続すべきである。 B. ほぼ期待通りの成果が見込め継続すべきであるが、計画の一部見直しが必要である。 C. 進捗に大きな遅れがあるなど、成果がほとんど見込めない。</p> </td> </tr> </table>	A	<p>・本研究の成果は、動力源が全て喪失した場合においても自然循環のみで崩壊熱除去が可能な炉システムの設計に資する重要な技術であり、本課題で研究を進めている各研究開発項目の継続は必須であると考え。成果も順調に出ており、全体的にプロジェクトの進捗は順調である。計画通りに開発を遂行して、目標を達成してもらいたい。また、システム水試験、ナトリウム試験ともにスケール効果など試験の結果をきちんと評価して、次の段階の研究開発、実用化へとつなげてもらいたい。</p>		<p>A. 期待以上もしくは期待通りの成果が見込め、継続すべきである。 B. ほぼ期待通りの成果が見込め継続すべきであるが、計画の一部見直しが必要である。 C. 進捗に大きな遅れがあるなど、成果がほとんど見込めない。</p>
A	<p>・本研究の成果は、動力源が全て喪失した場合においても自然循環のみで崩壊熱除去が可能な炉システムの設計に資する重要な技術であり、本課題で研究を進めている各研究開発項目の継続は必須であると考え。成果も順調に出ており、全体的にプロジェクトの進捗は順調である。計画通りに開発を遂行して、目標を達成してもらいたい。また、システム水試験、ナトリウム試験ともにスケール効果など試験の結果をきちんと評価して、次の段階の研究開発、実用化へとつなげてもらいたい。</p>				
	<p>A. 期待以上もしくは期待通りの成果が見込め、継続すべきである。 B. ほぼ期待通りの成果が見込め継続すべきであるが、計画の一部見直しが必要である。 C. 進捗に大きな遅れがあるなど、成果がほとんど見込めない。</p>				